

令和4年度 第1回 高砂市未来技術地域実装協議会 議事録

| | |
|------|--|
| 開催日時 | 令和4年 11月 25日(金)13:00~14:40 |
| 開催場所 | 高砂市文化保健センター2階多目的室 |
| 出席委員 | 13名(別紙名簿のとおり) |
| その他 | 傍聴者:5名 オブザーバー:内閣府地方創生推進事務局 |
| 議事 | <ul style="list-style-type: none"> (1) 会長、副会長の選出について (2) 高砂市未来技術地域実装協議会規約について (3) 協議会の公開について (4) 未来技術社会実装事業の概要 (5) たかさご未来資産を貯めようプロジェクトの概要 (6) 今後のスケジュールについて (7) その他 |
| 資料 | <p>事前配付資料</p> <p>第1回 高砂市未来技術地域実装協議会 次第</p> <p>高砂市未来技術地域実装協議会規約</p> <p>高砂市未来技術地域実装協議会の公開に関する規程(案)</p> <p>たかさご未来資産を貯めようプロジェクト全体像(案)</p> |

議事の経過

1 開会

<本日の資料の確認>

<本日の進行について説明>

2 市長挨拶

皆様、本日は、お忙しいところ、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。

特に、デジタル庁の職員の皆様には、高砂市までご足労いただき、ありがとうございます。

本年7月に内閣府未来技術社会実装事業に選定いただき、準備を進め、本日、第1回目の協議会を開催することができました。

特に、この協議会の特徴として、国の各省庁の皆様が構成員として参画いただき、デジタル技術を活用した本市の課題解決に総合的なご支援がいただけるものと期待しているところです。

本市の提案事業についての詳細は、後ほど担当から説明いたしますが、「たかさご未来資産を貯めようプロジェクト」として、デジタル地域ポイント事業を核として、コミュニティをよくする活動を促進する各種事業を、デジタル技術を活用して実装していこうとするものです。

また、これらの事業を進めることで、各種データを貯めていけるデータ連携基盤も整備し、今の世代も含め、将来世代において有効な基盤づくりを進めていけるものと考えております。

これらを進めるにあたっては、課題、ハードルもございます。

それらについて、皆様のご意見をいただきながら、よりよい制度、仕組みをつくっていかねばと考えております。

提案したあらゆる分野にまたがる多様な事業を一括して実施することは困難ですので、まずは、脱炭素行動についての市民の皆様の変容が促される取組について、実証を行い実装につなげ

ていく、スモールスタートで取り組んでまいります。

考え方は、市民本位の視点で取り組み、市民が使いやすく、事業に自発的に参加いただけるようにしてまいります。

本市の総合計画のキーワードは「共に」です。このプロジェクトを進めることで、市民や事業者の皆様と「共に」まちをつくっていきける1つのツールとなり得ると考えております。

これからのまちづくりは、ハード整備だけでなく、トータルなソフト事業によるまちづくりが必要だと考えております。デジタル技術を使ったこのプロジェクトにより、多様な分野の複合的な課題を市民や事業者の皆様と「共に」解決し、持続可能なまちをつくれる仕組みを構築できるよう頑張ってまいります。

本日は、限られた時間ですが、忌憚のないご意見を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

3 構成員紹介

<委嘱状交付>

4 議事

(1) 会長、副会長の選出について

会長に畑正夫兵庫県立大学地域創造機構教授、副会長に都倉達殊高砂市長を選出。

(2) 高砂市未来技術地域実装協議会規約について

<規約について説明>

(3) 協議会の公開について

<高砂市未来技術地域実装協議会の公開に関する規程(案)について説明>

規程を定め、会議は公開とすることとした。

(4) 未来技術社会実装事業の概要

(5) たかさご未来資産を貯めようプロジェクトの概要

(6) 今後のスケジュールについて

(7) その他

<(4)から(7)について説明>

質疑

○会長

実証実験と実装事業というのは一体根本的に何が違うのでしょうか。

何か簡単に感覚的にでもいいですが、ご説明いただけると、どうかと思います。

○事務局

実証というのは、いろんなサービス、新たなサービスを一旦試行的に実験してみましようということで、実装というのは、新たなサービスを市民生活の中で使っていただくということであると認識しております。

今回のたかさご未来資産を貯めようプロジェクトで提案している事業は、実装、市民生活の中で使っていただけるサービスとしていくことを目標にしています。

○会長

基本的にはできるものというイメージで、少し実験をして、それを確かめた上で、できるものの熟度が比較的高いものを実装するという風に、基本的に理解したらいいように思います。

いかがでしょうか、ご質問ありませんか。

○委員

企画書の中身を見ると非常にいろんな課題があって、それをデジタルで大きく変えたいと、ひいては地域の皆さんが元気になるような社会を作りたいというふうに理解しました。

非常にいろんな課題がある中で、一番の課題は何か。こういう風にしたいということがあれば教えていただきたい。

○会長

事務局お願いします。

○事務局

人口減少問題が一番の大きな課題であると考えております。

まちを支える人がいないとサービスは成り立っていかないし、気候変動対策も大きな問題であると考えています。これらは、デジタル技術を使っていかないと多分解決できないんじゃないかというところですが、デジタル化はなかなかハードルが高く、なかなか実装というところまで結びつかないというところも、課題だと考えております。

○会長

よろしいですか。

○委員

人が減ると社会サービスの水準を維持することが難しくなって、そうすると公助だけだとなかなか難しいので、自助共助の社会を作ろうと思うから、その一つのきっかけになるのが、多分地域ポイントで、それでうまくまわして、結局公助でやるよりも自助共助で、しかもみんなが繋がりをより深く持って、みんなが元気になっていくっていうのは、何となく、人口が減っている中でも有効な施策になると思います。昼間の人口が多いっていうお話だったので、その人たちをどうやって取り込んでいくのかということなんですけど、カーボンニュートラルの話っていうのは、オールジャパン、もうちょっと広い枠組みの中で議論することが多いのかなと直感的には思うんです。

その辺がちょっと引っかかって、職場の皆さん、地域の皆さんが一番何に悩んでるのかなっていうのを聞いた方がいいのではないかと質問させていただきました。

○会長

ありがとうございました。

今、答えはいらないので、論点として整理をしていけばいいかと思います。

○委員

子供がいなくなり、活気がなくなってきましたが、人口減少対策とデジタル化とが結びつかないんですね。そもそもデジタル化が何なのかよくわからない。デジタル化したらすべてがハッピーに、生活が良くなっていくとあるのですが、高砂市の現実はどうマッチするのか。

デジタルと我々市民生活、市民の行動変容をと言われましたけども、変容するためにデータがあるのか、変容したためにデータがあるのか、デジタルを目的にするのか、手段にするのかということもある。必要性の問題ですよ。

そんなことで、デジタルという言葉で何かこう、すべてを解決しなきゃなんですけども、もう一つがわからないというのが、私の実感です。

○会長

はい。とてもいいご指摘ですね。

事務局というのは何かお考えがあったら。

○事務局

デジタルはあくまでツール、道具でしかないんですね。人が減っていく中で、高砂ならではの顔の見えるコミュニティを維持するためには、デジタルの力を借りた方が良くないかなというところですか。キャッシュレスのサービス等は、使った方が便利だなというところで、皆さんが全部デジタルを使いこなせるようになるというのは難しいかもしれないですけど、今使っていただけている人がもっと使いやすくなるように、デジタル化は目的じゃなくて、あくまで手段でしかなくて、コミュニティを維持するところで力になるのかなというふうに考えております。

○会長

デジタルというもののイメージが大分違うと思うんですね。

インターネットに繋がっているような話から、つい先日も日本の通貨をデジタル通貨にという話が日経新聞中にもありましたが、徐々にデジタルを使うための、完全なんじゃないんですけど、安全なインフラのようなものの整備が進んでいて、それをうまく使おうという話があるようです。

ブロックチェーンって言ったりするんですが、ブロックチェーンというとなんか仮想通貨のようなイメージがしますが、そうじゃないような形でブロックチェーンをうまく使おうということが、想定されているんだと思うんですね。

コミュニティの話も、今のコミュニティとはまた違うコミュニティの登場みたいなもの、かつてで言えば SNS 上でコミュニティができあがっているような、そういうものが今後出てくるだろうというのが基本想定で、もう一つだけ付け加えればですね、課題は繋がっているという考え方をします。

一つの課題を解いたつもりでも、どこか別のところから問題が噴き出すっていうんじゃないかって、繋がっているというのを考えないといけない。

個別課題だけ叩いては駄目だからどうするかっていう、これは政策の問題ですね、そこにも繋がってくるので、これはちょっと事務局の方で少し、市民にわかるように整理をしていただくことが重要かなというふうに思います。

ありがとうございました。とてもいい質問いただきました。他には。

○委員

私から今回の案件で、行動変容をし、ウェルビーイングを享受していただく人のターゲットっていうのをどこに置くのかっていうところでちょっと質問させていただきたいんですけど、多分行政の単位で言うと住民票のある住民向けのサービスを提供するっていうのがターゲットというか、一つの考え方だと思うんですけど、さっきの話で、昼間の人口と夜間の人口の話があって、結局、昼間高砂市にいる人って住民票がない人が結構いらっしゃるということからすると、関係人口のようなものをターゲットにしないといけないんじゃないかっていうふうな話もあったりとか、あと、脱炭素の話でいくと、企業の生産活動と住民の消費活動で、極端に CO2 量が違ってくると思うんですけどね。さらに、企業で働いている人は外から来てますみたいな話が現実としてあるんで、そのあたりのターゲットを、住民に置くのか関係人口に置くのか。

SNS の話、会長からもありましたけど、高砂市と繋がっている人全般をターゲットにするのかみたいなのももう少しこれから議論が必要なのかなと思いました。

○会長

ご指摘でいいですかね。ありがとうございます。

ちょうど脱炭素の話が出たので、先ほど少し浮いているかなっていう話もちょっと遠いかなというイメージですね。

今、っていうことで、課題解決の中で、先ほど一つ課題が繋がっているという話はしましたけど

も、それだけじゃなく、課題に繋がる中の行動が、これはいろんな人が繋がっているというようなことが言われています。

企業の場合でしたら、バリューチェーンというのか、どういう使い方をして、原材料をどこで集めて、それをどう加工して、それをどう販売して、これからどんなふうにあfterケアしながら、お金、マージンを得るのかという、そういうプロセス全体を、今、脱炭素にしていけないといけないということが言われているわけですね。

その中でどうとらえるか。そういうことが非常に重要になってきて、コミュニティの活動の一つ一つとそれをどうリンクさせるかということも、今後これ考えていく必要があり、そこに説明が必要な部分があるというふうに私は認識しました。

これはなかなか難しいですけども、物を作られている方からすると、その物はどこから来ているのかっていうのは、いつもかなり問題になるところだと思いますね。

そんなところがきっとあるんだろうと思うので、それを具体的なプロジェクトにプロモートしていくかというのは、また後で説明があるんでしょうか。

次の会議までの間に、いくつか具体の事例を示していただくということが、このままやっていると空中戦になってしまいますので、重要なと思います。

結構いいところに行っていますので、どうでしょう。他に、こんなことを聞いていいだろうかっていうので結構です、どうぞ。

○委員

マルシェで、市民の方が来られた時に、その地域ポイントで商品を買っていただくとか、自分が実際やってみるんだったら、そういうふうな感じでやっていったらいいということでしょうか。

コミュニティ活動をしているので、実際に自分がやっていくときに、どんな形でやっていくのが一番市民の方に伝わりやすいのかなっていうことを、お話を聞いている中で考えたのでちょっと質問してみようかなと思いました。

○事務局

ありがとうございます。

資料の 7 ページには、事業のイメージがあるんですけど、地産地消の部分であったりとか、ポイントで何か応援するという一つのとして、他の委員の仰るような、小さなマルシェでポイントを使っていたかというのは、コミュニティをよくする活動に繋がる、わかりやすい取組の一つとなるんじゃないかなと考えております。

○委員

そうしたら、ポイント等もスマホとかで、市内で共通のものを作っていくという感じで、そういうものを市内で共有できるものを作って、それを市内に住む人たちが使っていけるために使うという形のイメージですか。

○会長

これは私が引き取っておきましょう。

実際に通貨とするかどうか、兼ねるかどうかっていうのは、十分に考えてないと思います。

一つは、オーガニックなものを例えば作ったりしてそれを売り、それを買ってもらう。

その中にポイントが発生するということも一つですね。

もう一つはですね、先ほどコミュニティっていう話が出ていましたけど、そういったオーガニックなものを作ったり食べたりした人たちのコミュニティみたいなものができあがるようです。そうす

ると、そういうコミュニティの人達は、食べ物だけじゃなくて、子供の教育とか子育てとか、そんなところにもっと関心持っている別のコミュニティの人達にも繋がりたいと思うようになってくると言うような感じの動きができ上がってくるというのが、この 7 ページの絵、そういうイメージになっているんだろうなというふうに思っているんですが、どうですか。

○事務局

ありがとうございます。そのような形をイメージしながら考えていました。

ただ、最初のスタートというところで、脱炭素行動というところの切り口から始めていくという考えではあるのですが、最終的に目指すのは、コミュニティの中での助け合いのツールに、デジタルポイントが繋がればいいなと考えています。

○会長

私はあえて当てません。よろしくお願いします。

○委員

先ほど他の委員からご発言がでたように、農村部に地域課題はあると思うんですけども、やはりそのデジタルというものの接点というのが、なかなかイメージしづらいというようなところが正直あるのではないかなというふうに、個人的には思うのです。

私も別の地域ですけど、田舎の出身でございますので、やはり農業だとかいわゆる第一次産業と呼ばれる分野の方については、やはりデジタルというものが、結びついていかないです。何が課題かという、イメージ図にもあるような耕作放棄地というような課題もある中で、後継者不足、次の世代の担い手というものが不足しているというのが一番の課題というふうに思われます。

ですので、今書いていただいている絵自体はすごく理想に近い形にもっていかうと見えると思いますので、ポジティブに考えていただければいいと思いますが、そこをなかなかイメージしづらいというようなところがあると思います。

こうすることによって何かメリットなり、享受できるような仕組みが作れば一番いいのではないかなというふうに思うのですけれども、その辺りのことをもう少し噛み砕いてご説明いただけるとありがたいですけれども、いかがでしょうか。

○会長

事務局いかがですか。説明しにくいようであれば私がちょっと言いましょう。

今書かれている絵は、脱炭素とか、現代的課題の部分直接出しているのだと思います。

実はそれがすでに着手していいものと置き換えてみると、スモールスタートと副会長が先ほど言われていましたけれど、そういう位置付けの中では全体像がよく見えないよね、技術だけで問題が解決するのかどうかという部分のところがきつとご心配なんだと思いますね。

そのあたりをどう整理していくのかは、やはり少し志を高くしたような活用方法も併せて考えていかないといけないのかなというふうに思っております。それは実証実験かもしれません。

企業は皆さんそうされていますよね。カーボンゼロですよ。

それできるのって議論と似たような話ですね。まずはそういう理解でとりあえずスタートさせるというのがいいかなというふうには、私は考えました。

ご発言をお願いしたいと思います。

○委員

私もこの話を聞いて、どういうところがポイントなのかなと私なりに考えたのですが、一つは今、なにも繋がってない状況で、繋がってないところをつなぐっていうところに、デジタルっていう

仕組みをうまく使うというのがデジタルの得意分野なのかなと思います。

具体的に言うと、今、途中で発言のあった関係人口みたいところで、高砂市には結構大きな企業さんがあって、そこに勤められている方がたくさんいらっしゃると思うんですけど、そういう方と市の事業者さんっていうのはあんまり関わりがあるような、ないようなという状況だと思います。そういう状況の中で、今どう使うのって見えにくいのかなと思います。

そういった地域の大企業と地域のコミュニティっていうのが今あんまり関わりはないのかなと思います。

ですが、最近いろんな地域でそういう地域の大企業が地域のコミュニティと少しずつ関係を持ち始めている、そういう例も出てきているという状況があって、そういうところがヒントになるのかなと思います。

カーボンニュートラルっていう部分はそういう意味で、相手方の企業にとっては非常に大きな課題であって、一つ、連携の手がかりになるトピックなのかなというふうにも思っています。

質問というか、ポジティブな部分の話になるんですけど、今朝、尾道市の方と話していて、かなり今、流入人口が増えている、移住が増えているという話があって、その増えているポイントは、転職なき移住ということで、リモートワークが当たり前になってきたと。東京、特に東京かその辺りでは当たり前になってきたので、それをきっかけに、地元に戻ると、そういうような方が増えています。やっぱり今回の取組とかですね、その地域がデジタル化するというところで、そういうふうに戻って来やすい場所になるということも大事なかなと思っています。

あと最後ちょっと質問というか、この辺どう考えていますかっていう部分なんですけども、今回その地域のデジタル化とか地域の中の繋がりを作るためにデジタルを使いますというところは見えたんですけども、それに伴って、やっぱり自治体自身の仕事のやり方、自治体自身が、ちょっとデジタルを使った効率化っていうところをやって、合わせていかないと、そのツールとしても使っていくことが難しいかなと思っています。

そのあたりで、今回そのデータ連携基盤みたいのが地域に向けてあるようなイメージだと思うんですけども、自治体として、業務改善していくという意味でのデータの活用っていうのは何か考えられているのかというところを伺えればと思います。

○事務局

ご質問ありがとうございました。

資料 13 ページをお願いします。データ連携基盤、ちょっと難しい感じのイメージを書いています。右の方には、データ連携基盤活用のイメージとして、地域、事業者向けには API で公開していくデータの活用、職員向けには、データを集めて分析し、そのデータを活用した政策立案に使っていくということを考えております。自治体内部の業務改善については、ICT 推進課が主となり、実際の業務効率化に、今まさに取り組んでいるところです。

今回も、このオンラインを併用した会議の開催形式についても、これまでだったら現地に来てくださいというような協議会形式が多かったのですが、こういう形でオンラインと現地のハイブリッド形式での開催も、デジタル化の取組の一つになっていると思っています。今後、皆様からご意見をいただきながら、考えていきたいと思っています。

今後のスケジュールということで、第 2 回の協議会を、年明けの 1 月下旬から 2 月上旬に予定しております。協議事項の予定としまして、全体スケジュールイメージで示した、項目ごとのより詳細なロードマップの案を作成します。あわせて、先ほどから議論になっている、データ連携基盤という

ものはどういうものなのか、デジタル地域通貨プラットフォームとはどういうものなのかというところについて方向性を定めていきたいと考えています。

令和 5 年度から実施することを考えている、脱炭素化へ向けた市民等の行動変容に資するサービス等の実証実験に参加いただける事業者募集の仕組みや、デジタルを活用した意見聴取等のツール、どういふうに意見を聞いて、反映していくかということについての検討も進めていきたいと考えています。次回の協議会で、ご意見をいただきたいと考えております。

○会長

ありがとうございます。

なにか追加はございませんでしょうか。

○委員

追加というか、お勧めという感じなんですけど、データ連携基盤自体は結構各地で進んできています。有名なのがお隣の加古川市さんだと思います。それから、私自身が関わっている分で、神戸市のデータ連携基盤があります。神戸市の場合は、私の本当に個人的な見方なんですけど、こういう事業者向け、地域市民向けっていう部分は、最終的にはあると思うんですけども、まずは、職員向けというところが大事なのかなと思っています。

データ、個人情報的な観点でも、ステップ的に、そういう、一旦内部でというステップあるのかなというふうに思っています。内部での活用という部分がまず大事になるんじゃないかなと思っています。るところですので、ご参考にさせていただければと思います。

○会長

ありがとうございます。

○委員

脱炭素についてなんですが、私は高砂市地球温暖化対策地域協議会の委員をしています。

高砂市は昨年 7 月にゼロカーボンシティ宣言をしています。兵庫県の中でゼロカーボンシティ宣言をしている市は他にもありますが、地域協議会を持っているのは、おそらく高砂市だけだと思います。そういう意味で、高砂市がゼロカーボンシティとして、兵庫県のトップランナー的な存在だと、私は認識していますので、ゼロカーボンを実践、推進することと、デジタル化をうまく繋げてあげて、非常に集約的に進めていくのだろうなという意識でこの議論を聞いています。ですから、脱炭素というのは、ちょっと唐突に聞こえるかもしれませんが、高砂市の全体の方向性としたら、多分それは合致しているんだというように個人的には理解しているつもりです。ですので、委員の皆さんもそのようにご理解いただいた方がいいかなと思います。

資料 6 ページにウェルビーイングという言葉があると思いますが、私の理解ですと、1948 年に WHO が、いわゆる健康の定義の中でウェルビーイングをかなり重要な言葉として使っているわけです。それをかなり意識されていると思いますが、先ほど他の委員がおっしゃったように、デジタルをいかに普及させるかということは非常に難しいと思うんですが、いわゆる障がい者の人たちは、いち早くデジタルを取り入れています。そういった障がいを持っている人たちとか、社会的にいろいろ障がいのある方々にとって、いわゆるユニバーサルデザインやバリアフリーとして、デジタルの普及の効果は非常に大きいんですね。むしろ彼らがトップランナーになるわけですよ。

例えば、そういった方向からも、この可能性を考えてもらって、単に便利なものにするのではなく、「未来技術」なので、子供たちだとか、障がいを持っている人たちとか、そういう人たちのための、デジタルツールと、健康な人たち(健常者)のためのツールが一体になって、まさしくユニバーサ

ルデザイン的な、そんなツールにしてもらうと、非常にわかりやすいと思うし、理解してもらえるかと思うんですね。

また、今、限界集落といったところもかなり厳しい状況です。こういった地域でも、例えば自動運転の車ですとか、そういった非常に便利なツールができたり、通信などの格差がなくなってくることが、DX化の一つの姿であると思いますので、それを意識して作っていただければいいと思います。

特に高砂市は、面積的にそんなに大きくないですし、良い意味で小回りがきくと思いますので、実装化の先駆的なことをやっていただければと期待しております。

○会長

ありがとうございます。

環境問題は高砂市が先進的だっという話を聞きました。

実は、私も企業とそんなプロジェクトを動かしています。スコープ1とかスコープ2、ちょっと専門的で申し訳ないのですが、二酸化炭素についても、普段の活動の中で個別の人が出した分だけじゃなくて、一緒になってどんなふうに出しているのかとか、どう関連しているかっていうのを整理していかないといけない時代に入ってきていて、これはもう大企業さんは特にそうだと思いますけれど、みんなそれに頭を悩まして、そういう状態に入ってきています。

一方で、先進的な取り組みは、コミュニティを形成しているというのもこれも事実です。

障がい者の人たちが自分たちの力で、ピアコミュニティっていうんですが、自分たちの力で問題を解決するというような、そういう部分の動きというのもあります。

自治会のような、居住地域に基づくコミュニティ、これもとても大切なんですね。

どちらも大切。この様々なコミュニティをどう繋いでいっていかってというのが、今、書かれてる絵の中に表れているんだろうなっていうふうには思います。

ご発言いただいてない方が、3人ほどいらっしゃるように思いますが。

○委員

この未来技術地域実装協議会という、ネーミングがちょっとあまりイメージがわからなくて、何か難しい協議会なんだなというイメージしかなく、事前に送っていただいた、たかさご未来資産を貯めようプロジェクトの書類の全部に目が通せていなくて、今日説明を受けて、こういう感じなんだなということがわかりました。

まず、たかさご未来資産というテーマというか、ネーミングが素晴らしいなということで、また、楽しみながら貯めることができると、それで将来世代の贈り物となるというストーリーがあって、本当に素晴らしいなと思うんですけど、まだぼやっとした内容で、今日の説明の中でも、やはりちょっとわかりにくいことがあったので、我々委員だけじゃなく、本当に高砂市民を巻き込んで、市長の思いである、高砂市の人口を増やす、暮らしやすい高砂市にするということを、これから計画を持って、数年後にはこういう結果が生まれるという、もう少し具体的なわかりやすいものをご提示いただきたいなと思います。

全体スケジュールのイメージの中で、たかさご未来資産から繋がる市民の脱炭素行動、そこでデジタル地域ポイント制度の目的、目標をもう少しわかりやすく示してもらったらと思います。そして2026年度にどんな結果が生まれるのかいうのも、市民を巻き込んでいくのであれば、本当に高砂市はますます高齢化社会になっていきますし、いろんな課題があると思うので、その課題解決に向けて、高砂市の皆さんが力入れて、以前からもやっていただいているとは思いますが、よりよい、住みよい高砂市、暮らしやすい高砂市を目指して、この今回の協議会も含めて、私も微力ながらで

きることはやりたいなと思っております。

もう少し明確に、目的、目標、結果がどういうことになるのかというところをこれからお示しいただけたらと思います。

○会長

ありがとうございます。

○事務局

仰っていただいているように、今日は、認識合わせであり、まだぼやっとしているところはたくさんあると思っております。次回までに、もっと具体的にどういうことを目指すのか、詳細なロードマップをお示しし、皆様のご意見をいただきたいと思っております。

○会長

委員どうぞ。

○委員

まず、事前に資料いただいた段階で、企業としてどういった取組ができるのかを考えています。

企業から考えると、どういったデジタルポイントが入ってくるのか。算出方法についても、先ほども会長の方が仰ってましたが、ポイントの妥当性とかですね、どういうところで企業に付与されるのかっていうところはかなり大きなところかなと思ってるんですけど、循環的にたかさご未来資産となって使えるかどうかってところ、このポイントというところが、果たして魅力的なものにできるかどうかってのが、一つ課題かなと思っております。

他の委員も言われた、キャッシュレス決済は非常に利用率が増えていますが、この辺りの利用率ってところも、どのあたりを目指していくのかってのも、ちょっとご質問しておきたいところかなと思っておりました。

○会長

事務局いかがですか。

○事務局

資料 18 ページには、本市の公式スマートフォンアプリ、たかさごナビの、今の利用人数を示しております、今インストール数が 8 月末で 2 万 2 千人弱ということで、人口 8 万 8 千人の 4 分の 1 の方は、そのアプリを、すべて市民の方かどうかはわかりませんが、使っていただいております。たかさごナビから、デジタル地域ポイントアプリを入れていただくという形が、普及促進に繋がっていくのではないかと考えております。

今回、考えているデジタル地域通貨プラットフォームでは、もう少し属性、個人情報に絡まない程度でももう少し具体的に分析できるような形、ターゲットがわかるような形でデータは収集していきたいと考えています。入り口として、このたかさごナビは一つ使えるところになるのかなとは考えております。

○委員

この高砂市の総合型アプリをブラッシュアップしていくのか、これに紐づいたようなアプリを作っていくという認識でいいんですかね。

○事務局

具体的な、どういうものを入れるかというのは、これからの検討事項になるんですけど、うまく連携する、紐付けていくというような形で、繋いでいくというような感じを考えています。

ただ、この部分に関しては、これからの検討事項となるので、お答えになっていないようで申し訳ご

ざいませぬ。

○会長

ありがとうございます。

まだ決まってないということですね。

今決めてしまっても、できるかどうかよくわからないですね。

○委員

委員就任のお願いに来られた際に、細かいところも含め質問をさせていただいておりますので、やろうとされている方向性は概ね理解させていただいているつもりなので、あまり具体的な質問はありませんが、デジタルを取り入れるということが前提での、国からの補助もあるという話でしょうから、そこを否定してしまったら元も子もないとは思いますが、デジタル化することが目的になってしまわないようにしないといけないと思います。皆さん、よくよく承知して進められていることだとは思っていますが、どうしてもそこに走り、陥りやすいかなと個人的には思っています。

他の委員も言われていましたが、本当に市民の皆さんの要望だったり願いだったり思いがちゃんと地に足についているというか、そこに沿ったことがされているのかなってというのは、時折、ちゃんと立ち返らないといけないと思っていて、おそらく事前に、その辺りは、例えば高砂市の総合計画を立てられときにたくさんの市民の方のご意見をまとめられて集約されていると思いますので、その中での強い意見を吸い上げた上で計画をされて、それらを受けてデジタル化との繋ぎをされていこうとしていると思うのですが、しっかりと繋いでいっていただきたいなと、市民の皆さんの思いに根づいた活動にしていいただきたいなと思います。

○会長

ありがとうございます。

お話にありましたけども、やっぱり市民を中心にした仕掛け、仕組みを作るということですね。市民の生活を良くするというので、ウェルビーイングだという話でしたね。

ウェルビーイングは、WHO の話もありますけど、効率的には、OECD なんかもそういう話をしていきますから、よい政策を作っていくという意味で言うと、EBPM(エビデンスに基づく政策づくり)という話と繋がっているんだろうなというふうには思いました。

交流人口の話については、ほったらかしにしていた話題でもありますが、外から来る人をどうするのっていう話のときに、外から来る人が、この中で何かサービスを作ったり、外の人がこの中の何かのコミュニティですね。先ほどの障がい者の話もいいかもしれませんが、そういうところに参加していくという形での繋がりや、逆に働きに来る人の企業に対してどうするかっていうことも考えておくことがとても重要なんだろうなと思います。

そうやって考えたときに、脱炭素だけを中心にせずに、もちろん重要な要素ですけども、基本的には、総合計画で持続可能な開発のための 2030 アジェンダを実行するんだ、つまり SDGs を実現するんだと言っていますから、そういうところの絡みをうまく埋め込んでいくということですね。

例えば、企業に、男性の育児休業取得率を高めたらポイントを付与するとか、そういうことを具体的に今ちょっと思いついたんですが、そんなことを具体的に示していくのも一つであり、その中で法人市民税の扱いを考えたりとか、いろいろ今までの仕掛けとか仕組みを考え直すチャンスなんだろうなと思っています。

もう一つの課題は、結局、住民を中心にするということなんで、行動変容と言っていますが、市民の役割は大きくなる。これは同時に、自治体、高砂市役所の役割も変わるということですね。

なぜならばということを説明したら、もう課題は解けないんですよ、市役所で人口減少の問題が解けたというところもありますが、実はそれは本当にそうなんだろうかとということを問わないといけないんですね。

そして、住民と一緒に考えていく市役所を作っていく、これは新しく難しい言葉で、ガバナンスということになるんだろうと思いますけど、政府のあり方、自治体のあり方を考えるということになってくるとことは、このプロジェクトは皆さんと一緒に高砂市を変えていくプロジェクトで、企業の皆さんも一緒です。だから、市も変わらないといけないし、皆さんも変えないといけないし、一緒に変わらないといけないということになってくるんだろうと思います。

課題として整理することはまだたくさんあるかと思います。

私から一つの提案ですけれども、何かわかりやすい、例えば人口減少で子育てということであれば、子育て全体をポイント化したらどうなるのかというようなことを考えてみるのも一つかもしれません。

このほかに何か別の課題でもいいかと。何か全体をポイント化したらどうなるかっていうことを考えて、具体的に示してもらおうとわかりやすくなるのではないかなと思います。

何に無理があるかっていうのはよくわかると思います。

もう一つは、やっぱり技術の話が抜けていますので、何ができるのかがよくわからないので、デジタル技術の話を少ししていただいたらどうかなと思います。

私にもわか勉強なんですけど、今、この新しい動きというのは、Web3.0 っていうらしいんですね。SNSとかフェイスブックの次の世界の話ですね。だからもう確実に変わっていくってことで、確実に変えるために、やっぱり勉強しないと始まらないですね。情報提供していただくというのが重要かなと。もっとオープンな議論を考えていただくということも重要かなと。公開の話は、冒頭の議題になりましたけれど、それだけではなく、わかりやすく情報発信していただくことも大切かなというふうに思いました。

まだもう少しだけ時間ありますので、何か意見があれば。

○副会長

ありがとうございます。

会長から本当に丁寧に説明していただきましたけど、私の方からですね、立場上市長ということで、これはやはり市民の行動変容ということじゃなく、市民がワクワクして、このプロジェクトに参加していただけるような仕組みづくりをしていかなきゃいけないと思っています。そこにはやはり健康であるとか、今コロナでなかなかその運動ができていない。そこでやはり運動することによってポイントを付与するとか、またいろんなゲートボールであるとか、グランドゴルフ、今本当によやくできるようになってきました。

そこに参加していただいた方々に、健康維持のために参加していただいているための工夫をしていくとかですね。いろんな形の市民が本当に参加できるような仕組みづくりをしていきたいなと思っています。そのポイントをどう活用していくかっていうのが、事業者の方々も考えていただきながら、お店で買い物できるとか、次の行動変容を考えていく。そこにもやはり地域活性化というものが見えてくるのではないかなと思っています。

高砂市はカーボンニュートラルを進めていくわけですけど、そこには意識の変革をどういうふうに持っていただくか、ただ単にゼロカーボンシティ宣言をただけではなく、企業の方々のご協力いただきながら、この地域がゼロに近づけていくその工程をですね、どういうふうに作っていくかという

のが大事だと思っていますし、クリーン作戦、単純にごみ拾いをした時のポイント付与とか、いろんな付与の仕方が、地域の活性化ができるような内容をですね、進めていけないかなってということも思っています。

このプロジェクトは、DX という、大きな国が今進めようとしているデジタル化、これを次の将来の国民生活がどういうふうに変容していくのかっていうのを、この地域、高砂市でも、他市にアピールできるような方向で進めたいと思っておりますので、この会議の中で、本当にいろんなご意見をいただきながらまとめていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○会長

まとめていただきましてありがとうございます。

そのところをどうしていくかということが大事だと思っています。

SDGs の話、おそらくみんなでやらないと始まらない、パートナーシップというのが、17 番目の目標に掲げられています。これは、みんなで考えていく課題であるということを少し意識して、今後取り組みを進めていけたらなと思っています。

まだ不十分ではありますけれども、しなければいけないことリストは何となくできました。

事務局は2月まで一生懸命仕事ができるということになったようですから、その他について、ご説明があればお願いしたいと思います。

○事務局

今日は、初回の顔合わせということでしたが、次回に向けて準備すべきところ、いろいろ整理すべきことがたくさんあることが認識できましたので、今日のご意見をまとめさせていただき、会議録も作らせていただきながら、適宜、意見をまとめた上で、ご報告し、次の協議会に臨みたいと考えております。今日は本当にここまでたくさんのご意見をいただき感謝しております。

ありがとうございます。

○会長

ありがとうございました。

もし言い足りないことがあれば、メールなどで連絡を取っていただいて、事務局にもうちよっこも考えてね、面白い、これがいいと。あるいは、企業、もう私はこんなことができるよということでもいい、自分事化ということで、事務局にお伝えいただけたらなと、私としては思うところです。オンライン参加の方もたくさんいらっしゃると思いますけれども、オブザーバーとはいえ、繋がっている仲間ですので、ぜひご意見をいただけたらなと思います。

特になければ、これで本日の協議会を終了したいと考えています。

その後の進行は事務局にお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。これで協議会は終了します。

オンラインで参加くださっている方々も、ありがとうございました。

オンラインのミーティングは接続を終了します。

別紙 名簿

| 区分 | 委員 | 所属 | 出欠 |
|-------|--------|---|------------------|
| 国 | 矢崎 剛吉 | デジタル庁国民向けサービスグループ参事官 (国の現地支援責任者) | 出席 |
| 国 | 横谷 勉 | 総務省近畿総合通信局情報通信部情報通信振 興課課長 | 出席 (オンライン) |
| 国 | 小牧 兼太郎 | 総務省地域力創造グループ地域情報化企画室 兼マイナポイント施策推進室室長 | 欠席 |
| 国 | 池本 忠弘 | 環境省地球温暖化対策課脱炭素ライフスタイル 推進室室長補佐 | 欠席 |
| 国 | 酒井 良文 | 環境省地球温暖化対策課脱炭素ライフスタイル 推進室室長補佐 | 欠席 |
| 国 | 西尾 優花 | 環境省地球温暖化対策課脱炭素ライフスタイル 推進室環境専門調査員 | 欠席 |
| 県 | 赤澤 茂 | 兵庫県情報戦略監 | 出席 |
| 大学等 | 畑 正夫 | 兵庫県立大学地域創造機構教授 | 出席 (会長) |
| 大学等 | 土川 忠浩 | 兵庫県立大学環境人間学部教授 | 出席 |
| 大学等 | 宮崎 光世 | 兵庫大学現代ビジネス学部 現代ビジネス学科教授 | 出席 (オンライン) |
| 商工業 | 浜谷 和英 | 高砂商工会議所 議員 | 出席 |
| 事業者 | 満田 美智代 | 三菱重工業株式会社総務部 総務第三グループ長 | 出席 |
| 事業者 | 竹内 健吾 | 株式会社籠谷 企画開発室 部長 | 出席 |
| 事業者 | 春下 充代 | ありがとうの種農育楽園主宰 | 出席 |
| 市民団体 | 松本 克英 | 高砂市連合自治会会長 | 出席 |
| 広域自治体 | 小川 佳宏 | 兵庫県東播磨県民局長 東播磨スマートシティ推進協議会会長 | 代理出席 (梶本 智和氏) |
| 市 | 都倉 達殊 | 高砂市長 | 出席 (副会長) |